

3 評価委員の前年度の意見に対する対応等

前年度の事務点検・評価において、評価委員よりいただいた意見に対する対応等を示します。

(1) 学校教育分野

施策	評価委員の意見（抜粋）	対応等
全体について	令和6年度の学校教育施策の進捗については、「遅れ」の箇所も散見されるが、それへの対策も立案を講じていることが読み取れる。それぞれの項目において、分析の視点や対応策の検証をしつつ、場合によっては項目の適切さも検討しつつ、経過を確認していったほしい。学校の中での職務は多様で多くの種類と量がある。教育上の新しい課題は多々あるが、働き方改革のバランスをとりながら、正規職員・非正規職員の別に関わらず個人に仕事が集中しすぎないよう、職員の数、仕事内容の質や量、その時々々の状況もふまえて精査を行い、各職員の生活の質の保障も含めて施策内容の検討や、実施をしてほしい。	引き続き、第3次学校教育推進計画を周知するとともに、中間見直しに向け、項目の適切さ等が検討できるよう各課所と連携を図ります。（教育改革推進課） 改編した「学校における働き方改革推進プラン」を基にした具体的取組を進めていきます。チーム学校推進委員会や働き方改革推進会議にて教育委員会や学校現場からの様々な視点からの意見をいただきながら、新プランにおける検証を進めます。（教育職員課）

施策	評価委員の意見（抜粋）	対応等
スクールメディカルサポート事業	(1) 成果 SMA（全体を統括）は、各看護師の状況を把握し、各児童生徒のケアが抜けることがないよう采配し、医療的ケアが終了後の児童生徒の対応や、各看護師の相談等も行っている。看護師配置だけでなく、SMAの存在も、スクールメディカルサポート事業において重要な役割を担っている。千葉県において、医療的ケアが必要な児童生徒に全て対応ができていたのはそのためといえるだろう。現場の意見を聴取しながら、今後もよりよい形で継続してほしい。	SMAの存在が事業に与える影響は大きく、各校の医療的ケアの状況の把握や相談助言、看護師の相談対応、配置終了後のアフターケアなど、非常に大きな役割を担っています。 対象児童生徒の増加に伴い業務量も増加しているので、エリア別に統括するなど体制について検討していきます。（教育支援課）
	(2) 人材の拡充とサポートの可視化 看護師が体調不良などにより勤務につけない際の、代替人員の余裕がない状況が見られた。要請があれば実働可能な待機看護師の確保も今後の課題だろう。それは児童生徒の安心感と共に、職員自身が安心して継続し勤務していくことにもつながるのではないだろうか。また、スクールメディカルサポートの説明リーフレット作成の企画があると聞く。是非、実施内容と共に、各所や人との連携等も分かるような資料を作成していただき、活用まで進めてほしい。	待機看護師の確保については、看護師2人体制の学校を1校作り、急な代替に備える運用を試験的に行っています。児童欠席時に他校に派遣できる体制や、それに伴う待機所の確保など、より効果的な運用を検討していきます。年度途中の新規の申請に備えた雇用の確保を含め、人材確保について拡充を検討していきます。 説明リーフレットの作成については、保護者向け、学校向け、主治医向けと対象別に事業説明ができるものを検討しています。関係者の連携に活用できるよう努めます。（教育支援課）

施策	評価委員の意見（抜粋）	対応等
教頭マネジメント・サポーターの配置	(1) サポーターの拡充に向けて 視察校ではサポーターが入ったことで、校内で教頭が対応する事案でも優先度合の高いことに重点的に対応できるようになったこと、また校内の教職員の事務が円滑に動くようになったこと等が分かった。また教頭とサポーターの連携が円滑にいくような日常からのコミュニケーションや、双方が仕事をする場所の配置の工夫があることも確認された。現在、市ではサポーター配置の効果検証もしているところとも聞く。視察校ではよい効果が認められるといえるだろう。	視察校においてサポーター配置の効果が明確に確認されたことから、本市としても、効果検証の結果を踏まえつつ、配置拡充に向けた検討を進める必要があります。教頭のマネジメント機能を高め、学校全体の業務改善につなげるため、好事例の共有や連携体制の整備、必要な予算措置について引き続き検討を進めていきます。教頭の業務内容を精選、分類することでサポーターが担うことのできる業務を洗い出し、教頭は教頭でなければならない業務に注力していきます。（教育職員課）
	(2) 各学校の状況の把握 視察の中で、小学校と中学校が求める内容や、学校の所在する地域やその時々学校の様子によっても、求める仕事の種類や重点事項も異なることが見えてきた。市では、学校事情を聴取した上で、サポーター配置をしていることは確認できたが、今後も配置をする際には、引き続き学校の事象を把握し、その学校の状況に合う人材の配置をしてほしい。また、学校では突発的なこともあり 4 月からではなく途中からのサポート要請も考えられる。今後、拡充を考えていく場合は、柔軟な予算措置と配置計画と合わせて検討してほしい。	視察を通じて、学校ごとに求める支援内容が大きく異なることが確認されました。年度初めに提出書類・報告等が多くあるので、CABINET のアカウント・端末の事前準備に早めに着手する必要があります。今後、サポーター配置を拡充していくにあたっては、学校の規模・状況等を継続的に把握し、そのニーズに合った人材を柔軟に配置できる体制が重要です。年度途中の追加要請にも対応できるよう、予算措置と配置計画の両面から検討を進めていきます。（教育職員課）

(2) 生涯学習分野

施策	評価委員の意見（抜粋）	対応等
全体について	生涯学習関連事業は、市民が学びを通じて健康で文化的な生活を営むための環境基盤を整備することを目的として実施されている。千葉市では、図書館、生涯学習センター、公民館などが整備されており、物理的環境は一定水準以上に充実していると考えられる。「第6次千葉市生涯学習推進計画」では、学びの活動と地域をつなぐコーディネーターとしての人材の重要性が指摘されている。公民館を身近な地域拠点と位置づけ、社会教育主事有資格者など専門的知見を持つ人材をより一層活用していくことが求められている。生涯学習センターや公民館に限らず、すべての施設において、専門性を備えた適切な人材の配置は、生涯学習施策を進める上での重要な鍵となる。人材の登用・育成については、引き続き「第6次千葉市生涯学習推進計画」に基づき、生涯学習環境整備の一環として、さらに推進されることが期待される。	公民館や生涯学習センターでは、講座企画や生涯学習相談といった市民の生涯学習活動を支援するための知識や技術を取得する研修を、図書館では、図書修理技術や読み聞かせといった職員のスキルアップを目的とした研修を実施することで、職員の資質向上を図っており、専門性を備えた適切な人材を配置できるよう努めます。 また、引き続き社会教育主事講習等に公民館職員を積極的に推薦し、資格取得者の増加に努めます。（生涯学習振興課）

施策	評価委員の意見（抜粋）	対応等
科学教育の推進	多くの自治体に科学館は設置されているが、千葉市科学館において特筆すべきは、市が「科学都市戦略」に基づき、「子どもから大人まで、すべての市民が日常生活の中で科学・技術を身近に感じられる科学都市の創造」を理念に掲げ、科学館を知識の普及・啓発の拠点として位置づけている点である。戦略と計画が明示されていることにより、目指すべきビジョンが明確になり、それを実現する道筋が体系的に示される利点がある。また、行政、市民、企業、NPO など多様な主体が協働する基盤として「科学都市戦略」が策定されている意義は大きい。	科学館が「科学都市戦略」の中心拠点とし、館内活動だけでなく市内学校や公共施設等へのアウトリーチ活動についても内容や実施回数の充実ができています。 9 階テクノショップには企業の技術に関する展示を誘致しています。市内の企業を中心に6か月ごとに2社程度ずつ入れ替えて実施しており、出展企業には展示期間内に講演会・講座・ワークショップ、科学フェスタ「オンリーワン企業」への出展など市民と企業が直接触れ合う機会を提供することができています。（生涯学習振興課）
	科学館では、子ども向けプログラムの開発に教員経験者がスタッフとして関わり、学校教育における科学館の活用方法や展示のわかりやすさへの知見を提供している。また、大人向けプログラムとして、卓越した学問的見識を有する館長が「大人を楽しむ科学教室」の企画に参画し、年間約40回の多彩な講座を開催している。科学館全体が学習する組織として機能し、スタッフが実践共同体として研鑽を積んでいる点を高く評価すべき所である。	「人が主役の科学館」のコンセプトのもと、各講座やプログラムにおいて教員経験者や学芸員有資格者等が知見を提供し合い、講座やプログラム運営をすることができています。 他施設と連携した講座やプログラムも多く実施し、利用者の幅広い需要に応えることができています。（生涯学習振興課）

	科学館のプラネタリウムは、2025 年 1 月にリニューアルオープンし、天の川を構成する恒星の表示数が 1 千万個から 1 億個に増加し星の明るさや色彩の表現がより高精細化された。赤ちゃん連れの親子、児童、生徒、大人といった幅広い層を対象とした多様な企画が実施され、世代を超えた関心を引いている。	乳幼児連れの親を対象にしたり、気軽に楽しむために短い投影時間でのプログラムを実施したりするなど、対象や目的を明確にした多様なプログラムを継続することができています。 特別投影ではプラネタリウムと DJ イベントのコラボレーションや、自主制作番組「星あかりの詩」の声優招聘イベントの開催など新しい試みの実践もしています。 (生涯学習振興課)
--	---	--

施策	評価委員の意見（抜粋）	対応等
縄文文化などへの理解・関心の向上	「千葉市基本計画」（計画期間：令和 5～14 年度）では、「未来のまちづくりに向けた戦略的視点」として、「縄文から受け継ぐ『自然と共生する』精神を生かし、SDGs 達成に向けた取組みの推進」が掲げられている。縄文文化の研究とその成果の発信を目的に策定された「特別史跡加曽利貝塚新博物館基本計画」では、「生きている縄文学び、体験し、考えるーそれは未来への道しるべー」を基本コンセプトに、国内最大級の貝塚という地域資源を生かした施設整備が進められている。	令和 7 年度末に事業者と契約を締結し、令和 8 年度から基本設計に着手しています。令和 12 年度の開館に向けて、貝塚を中心とする縄文文化の研究とその成果を発信する拠点として、縄文文化と SDGs を学ぶことのできる新たな博物館の整備を推進します。（文化財課）
	埋蔵文化財調査センターでは、遺跡の所在確認や発掘調査といった地道な研究活動を行っている。小学校や公民館に出向き、「土器触・講座」「火起こし」「勾玉づくり」「組紐作り」などの体験学習を出前授業として提供していることはセンターの研究活動を広く地域に還元する有意義な取組みである。特に小学校社会科の縄文文化単元と連携し、多くの学校からの依頼を受けて出前学習を実施しており、身近な教材を通じて縄文文化への理解を深める機会を広く提供している点は高く評価できる。	引き続き、遺跡の所在確認や発掘調査を実施するとともに、小学校等での出前授業を実施し、縄文文化への理解を深める機会を広く提供します。（文化財課）